

公益財団法人国際通貨研究所

令和3年度事業計画書

現下の国際金融・経済を取り巻く環境は、パンデミック終息に向けた期待と不透明感が並存し、総動員された財政・金融政策の副作用が指摘される一方で、その出口も展望し難い状況です。また、気候変動問題への政策対応加速、金融デジタル化の更なる進展、格差問題の拡がりや米中対立の長期化とグローバリゼーションの変調といった潮流は、これまでの経済・金融システムに構造的変革を迫るものとなっています。

こうした問題意識のもと、国際通貨・金融を専門とする公益シンクタンクとして、独自性ある調査研究テーマを追求し、成果を幅広く社会に還元することにより、我が国および世界の金融経済社会の安定と発展に貢献して参ります。

1. 本年度は、以下を重点テーマとして、自主調査あるいは委嘱調査の形で調査研究活動を実施いたします

調査研究の枠組みは、グローバリゼーションの限界、新しい経済メカニズムへの移行、を軸に以下のようなテーマを重点に掲げ、レポート・刊行物などによる調査研究成果の発信、他の研究機関などとの情報交流の両面で取り組んで参ります。

- 気候変動問題を中心とするサステナビリティ課題への取り組みが金融・経済や政策面に及ぼす影響
- デジタル化がもたらす金融・経済・決済システム等への影響
- エマージング諸国の経済・金融情勢とリスク評価
- 格差拡大や地政学リスク増大等の変化が内外金融市場や金融・財政政策に与える影響とその展望

また、これらの調査研究に関連し、これまで培ってきた知識・経験を活かしつつ、国際経済社会に関わる先見性に富んだ問題提起や政策提言を行い、引き続きグローバルな金融市場の発展に貢献いたします。

2. 公益法人としての調査研究成果の对外公表、情報発信、外部との交流、普及啓発活動を推進いたします

- (1) 世の中の注目度が高く、かつ当研究所の調査研究活動の重点テーマと関連するテーマについて、内外の識者をパネリストとする国際金融シンポジウムを開催します。テーマの候補としては、パンデミックを経た世界経済の展望、低金利政策と債務膨張・資産価格高騰の行方、長期化する米中対立とグローバリゼーションの展望、といった事項が挙げられます。
- (2) 既述の本年度研究テーマに関連し、今年度 2 回開催したウェビナーについては、来年度は 3 回の開催を目指します。また、外部有識者や内外研究機関等との情報交流を積極的に行います。最新情勢に関する専門家の知見を吸収、蓄積することにより、国際社会に向けた問題提起、政策提言に努めて参ります。
- (3) ホームページの充実、メールマガジンの継続的な発行により、調査研究の成果を広く社会に発信、還元します。また、新聞・経済専門誌やテレビなどの外部メディアへの寄稿、出演、取材についても積極的に対応し、情報発信力を強化します。
- (4) 国際金融に関する諸問題の普及啓発を推進するため、公的機関が主催する研修や教育機関における講義への講師派遣などを実施いたします。国際交流の推進の一環として実施しているインターン受入れについては、来年度はコロナ収束状況を見ながら、内外の大学、大学院からのインターン受入れを行って参ります。

以 上